

第6回関西支部技術士受験説明会議事録

令和3年4月4日
関西支部長 高垣俊壽
議事録作成 松永敬二

【日時】

令和3年4月4日（日） 14:00～16:00

【方法】

リモート（Zoom）会議方式

【参加者】

説明会受講者7名、技術士7名⇒合計：14名

北海道、関東地方、関西地方より7名の方が受講者として参加して頂いた。

【技術士受験説明会】

開始前に真野副支部長より、当会からのお願い事項として、参加者全員にリモート開催時の諸注意をお願いした。

1. 開会の挨拶・・・・高垣支部長

技術士包装物流会は経営工学部門の中で包装・物流・ロジを専門とする集団です。この技術士受験セミナーを技術士合格のためにぜひ活用していただきたい。

2. 基調講演：「技術士試験・受験のすすめ」について

講師：平田達也 技術士（経営工学部門 ロジスティクス+総監部門）

ご自身のプロフィールを交えながら、技術士を目指されたきっかけを紹介。技術士の説明、特典・メリット、技術士の試験制度の概要および試験制度の変更点について説明され、技術士を受験する上での心構えや勉強法などをご自身の実体験に基づいて紹介された。説明内容は下記の項目を、パワーポイントにて解説。

(1) 技術士・技術士補とは

技術士・技術士補の定義、技術士の義務・責務、技術士の業務、技術士CPD（継続研鑽）について説明し、技術士は、職業倫理を備えることを求められると同時に自らが継続して社会のニーズに合致した研鑽必要。

技術士の特典・メリットとして技術士の特典・メリットとして例えば建設業では公共入札に技術士の資格が求められる、また社外のネットワークが拡がり業務の幅が拡大する等々。

(2) 技術士になるためには

一次試験及び二次試験の概要・受験資格の説明、試験内容はマークシート問題の必須科目、筆記問題の選択科目Ⅱ、Ⅲとなっている。合格すれば口頭試験に進めるが、その際、筆記試験の答案、並びに出願時に提出する業務経歴票も参考にして試問されるため、願書記載時から試験は始まっている。また、令和元年度試験からの変更点として、二次試験選択科目の中のロジスティクスは生産・物流マネジメントに統合されると共に、試験問題は全て記述式に変更となっている。平田様の推奨される試験対応の勉強法として、過去問題や合格した先輩の再現論文を参考にし、出題予測されるキーワードやテーマを抽出し徹底的に覚えること。

さらに、筆記試験中は絶対に諦めないこと、筆記試験終了後は可能な限り早く論文を再現すること等を推奨された。（筆記試験で最も重要なことは未記入・空白はダメ⇒何某かの記述を行う事。また受験番号や名前を書き忘れて不合格となった例も多い。試験会場には時計や電卓等を忘れないように）

口頭試験のポイントは三点（業務経歴・再現論文・技術的なトピックに対する質問）を意識して事前準備する。会場（渋谷のFORUM8）は日時指定で清楚な服装で臨む。不合格の経験者へは不合格の理由を聞かれることもある。

(3) 技術士包装物流会について

技術士会員以外でも研究会員として参加が可能であり、会として技術士受験生をサポートしているため、技術士を目指される方の入会も歓迎と説明された。

3. 新試験制度後のポイント解説

講師：野々山和行 技術士（経営工学部門 ロジスティクス）

今後の技術士制度の在り方について基本的な考え方と具体低方策について説明された。

令和元年度（2019年度）から新制度に改定された（主な変更点は以下の通り）

- ・技術士に求められる資質・能力（コンピテンシー）を策定した。
- ・一次試験は従来と殆ど変わらない。

基礎科目、適正科目、専門科目とも大きくは変わらない。

- ・二次試験はコンピテンシーを念頭に見直されている。(択一方式から記述方式に変更)
選択科目は96科目から69科目に統合された。
経営工学部門は5科目から2科目に変更された。
- ・口頭試験は大きく変化している。2018年度までは、経験及び応用能力・技術者倫理・技術士制度の認識他で評価されていた。2019年度からは、コンピテンシーの中から①コミュニケーション・リーダーシップ、②評価・マネジメント、③技術者倫理、④継続研鑽が問われている。
- ・二次試験は、筆記及び口頭試験はマニュアル化が進んでいる。(文科省 技術士分科会 試験部会資料より)
- ・二次試験受験申込書の「勤務先業務経歴」には、これまで勤務先上司の押印が必要であったが、今年の受験申込書では押印欄は削除されており、簡略化されている。

4. 技術士試験受験について<体験談>

講師：北 松彦 技術士（経営工学部門生産・物流マネジメント）

講師は技術士制度の変更前と変更後の双方で受験され、2年前の変更後に合格された経験談を説明された。

<受験動機>

包装管理士取得を経て技術士包装物流会の活動内容を知り参加した。そこで技術士を再認識して受験を決意した。

<試験科目の決定と受験勉強>

自分が技術士ならどうするか？を念頭に業務遂行を心掛けた。取り組んだ事として毎日欠かさず勉強した。

（一日休むと心が折れると思った）また、家族や職場に受験宣言をして自らを追い込んだ。最も大切な事は先輩技術士の指導と様々な事例に学ぶことである。

<一次試験対策>

日本技術士会のホームページの過去問を実際に解いて、自分の得意とする専門分野を見つける。合格への得点率は50%なので過去問対策により取りこぼしの無い準備をする。

<二次試験対策>

業務経歴の記載から業務の棚卸をして自らの成長過程を示す事が大切である。二次試験対策（口頭試験も）は出願する段階から既に始まっている。（出願時の記載内容が試験で問われる）択一方式は暗記していればクリア出来るが令和元年度から記述方式に変更された。記述方式はキーワードが出てこないと文章をスラスラ書けない。（試験時は考える時間は無い）日頃の鍛錬でキーワードの引き出しを増やして頭に叩き込むこと。また、最初はパソコンで（ワードで）論文をざっと作成して手書き鍛錬を繰り返すことが大切である。

<口頭試験対策>

筆記試験終了後は必ず再現論文を速やかに作成する。（口頭試験で問われるから忘れない為に重要）私は筆記試験終了後にトイレ休憩等でボイスレコーダーに筆記試験で記述したポイントを録音して再現論文を残した。

技術士に求められる資質・能力（コンピテンシー）を理解して頭に叩き込む。また口頭試験終了後は帰宅後速やかに質疑応答の記録を残す事も大切である。（仮に不合格となっても次回受験時に必ず役立つ）

<試験時のポイント>

予め試験会場を下見して試験当日は余裕をもった移動を心掛ける。（私の場合は試験会場に近いホテルに前泊した）特に二次試験の論文作成は骨子づくりが大切である。書き始めると後戻りできない（時間が無い）また論文の採点を行う試験官が理解し易いように図や表などを活用する（文字の羅列では読む方も辛いし理解されにくい）

<参考書籍等一覧>

出来るだけ多くの参考書を通勤等の隙間時間を活用して頭に叩き込む。（試験時の自信に繋がるくらい読む）

<その他>

受験には家族の理解と協力も必要である。また受験に当り最も大切な事は「あきらめない」強靭な姿勢を貫くことであり、一度落ちても必ず成就させるという気概を持ち得ることである。

5. 最後に

真野副支部長よりアンケートの記述を要請し、“チャット”に張り付けたURLより各自アンケートへ記入して頂いた。また、受講者からCPDのエビデンスを送って欲しいとの要望があったため、全員へ送付することを確認した。最後に、技術士試験には根気よく取り組んで頂くことが大切であることと、お休みのところ説明会に参加して頂いた受講の方々に御礼を申し上げて、閉会とした。

以上